

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要 (2022 年度)

= 学位授与の方針 (ディプロマポリシー) =

〈人文学部〉

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
2. 生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
3. 自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
4. 自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

〈人間文化研究科〉

カトリシズムの精神にのっとり創設されている長崎純心大学大学院人間文化研究科は、博士前期課程 (前期 2 年、学位：修士)、博士後期課程 (後期 3 年、学位：博士) で構成されている。研究分野は文化、福祉、心理、教育・保育の分野からなり、各分野においてその学術理論及び応用実験を攻究し、その成果をもって文化、社会の発展に寄与することを目的としています。

博士前期課程

この目的を達成するための指針

1. 各研究分野における幅広い学問の基礎的能力
2. 高度な専門知識と倫理観をもとにした多角的思考力と分析力
3. 専門領域における問題解決力と専門職としての実践力

これらを身につけた上で修士論文または特定の課題の研究成果の審査及び最終試験に合格したものに、学位 (修士) を授与します。

博士後期課程

この目的を達成するための指針

1. 十分な学術専門知識
2. 新たな知を創造する研究能力
3. 各研究分野における優れた学術的な成果

これらを満たした上で博士の学位論文の審査及び最終試験に合格したものに、学位 (博士) を授与します。

= 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラムポリシー) =

〈人文学部〉

【教育課程の編成】

人文学部では、学位授与方針 (ディプロマポリシー) を達成するために 4 年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の 3 つの科目群によって編成します。

【教育内容・方法等】

「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学芸を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

〈人間文化研究科〉

本研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を取得させるため、次のような体系的な教育課程を編成し、身につけるべき力を定めています。

博士前期課程

1. 博士前期課程には、統合科目、基軸科目、展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、統合科目を履修し、また、他分野の基軸科目を履修することが可能であり、それによって多角的思考力や分析力を身につけます。
3. 本課程では、専門分野の基軸科目、展開科目を履修することによって専門分野における問題解決力、専門職としての実践力を身につけます。

博士後期課程

1. 博士後期課程には基軸科目、総合展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、基盤科目の履修により、十分な学術専門知識および新たな知を創造する能力を身につけます。
3. 本課程では、総合展開科目により各研究分野で学術的な成果を上げるための実行力を身につけます。

= 学習成果の評価（アセスメントポリシー） =

〈人文学部〉

人文学部全体としての学修成果の評価は、①学習時間・学習経験等に関するアンケート調査、②全科目を対象とする授業アンケート、③GPA並びに単位取得状況によって行います。

講義科目は、知識の習得に加え、論理的思考力、記述力、読解力、発言力について学期末試験、授業内で臨時試験、レポート提出、リアクションペーパーなどによって評価します。

演習科目は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する力について、論文やレポート提出、プレゼンテーションなどによって評価します。

〈人間文化研究科〉

博士前期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る研究発表
3. 学位請求論文

博士後期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る学内外での研究発表
3. 学位請求論文

= 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー） =

〈人文学部〉

長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。

各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに習得すべき基本的言語運用能力を身につけた以下のような^{*}入学生の受け入れを目指しています。

注) ^{*}は学科ごとのアドミッションポリシーを記載。

〈人間文化研究科〉

本研究科は、設置の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のような学生を受け入れます。

博士前期課程

1. 専攻する各研究分野について強い志向性と創造力のある人
2. 研究を遂行する上での基礎的学力を有する人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。さらに、臨床心理学分野においては、公認心理師として社会に貢献するために必要な心理学についての学部レベルの学力及び英語力を有する人を選抜するため、口頭試問に加え筆記試験を課します。

また、入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。

博士後期課程

1. 専攻する各研究分野に関する十分な学術専門知識を有する人
2. 学術研究能力があると認められる人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。口頭試問においては修士論文等や研究計画書を基にした質疑応答を通して、学術専門知識、学術研究能力、総合的思考力を判断します。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人純心女子学園第4期中期目標・計画（2022年～2026年度）を策定し、「5年後にありたい姿」として、8割以上の学生が本学での教育及び学生生活に満足できるようにすること、学生の望む成長を教職員全員が全力でサポートすることを中期戦略目標に設定した。2022年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による影響が払拭されず実施困難となった行動計画もあったが、それぞれの項目で点検・評価を実施した。2022年度の点検・評価を踏まえ、次年度以降の行動計画実施に向け、引き続き全力で取り組んでいく。

(3) その他

2022年度における各事業所における主な活動は次のとおりである。

長崎純心大学

1. 教育・研究

- ① 2022年度より学長補佐の職制を設け、坂本久美子教授が就任した。
- ② 7月10日にドイツ連邦共和国外務大臣一行が文教町キャンパス江角記念館を訪問され、本学学生13名と平和に関するディスカッションを行った。
- ③ 江角ヤス学園長の朝礼講話集『ほんものに成るのよ』（山田幸子理事長編）を再刊した。
- ④ 出張講義（9月14日：長崎県立大村高校へ出張講義（濱崎先生）、9月29日：佐賀県立伊万里高校（妹尾先生）、10月24日：長崎県立長崎北陽台高校（足立先生・田中先生））に出向いた。
- ⑤ ジェイムズ・ノラン教授（ウイリアム大学社会学教授）を客員研究員として受け入れた。
- ⑥ 文部科学省 SPARC 事業に申請したが、不採択となった。
- ⑦ 2月3日に文教町キャンパス江角記念館において、駐日欧州連合（EU）大使及びEU加盟国大使と本学学生との平和交流を行った。
- ⑧ 入学前プログラムとして、2月4日と2月25日にリモート交流座談会、3月6日に学科別プレ講座を実施した。
- ⑨ 科学研究費補助金は、学術変革領域研究（A）1件、学術変革領域研究（B）1件、基盤研究（B）2件、基盤研究（C）3件、研究活動スタート支援1件が交付された。

2. 学生・キャリア支援関係

- ① 高等教育修学支援制度に対応した。
- ② 4月1日の入学式は、午前文化コミュニケーション学科と地域包括支援学科、午後はこども教育保育学科と大学院に分かれ、ソーシャルディスタンスを保ちながら、挙行了。また、3月17日の卒業証書・学位記授与式は、浦上カトリック教会で、3年ぶりに感謝ミサを捧げ学位記授与式を挙行了。
- ③ 学生発案の企画として、数日間キッチンカーにより昼食の販売を行った。
- ④ 純心祭を10月/22日(土)・23日(日)に対面により実施した。
- ⑤ コロナ対策として、入学後当初1週間は、通学のための貸切バスを運行した。
- ⑥ コロナ感染予防として、学食にパーテーションを設置し、職員が交代で拭き取りを行った。
- ⑦ 小学校教員採用試験に30名合格、中学校教員採用試験(国語)に5名、中学校教員採用試験(英語)に1名、高等学校教員採用試験(英語)1名が合格した。
- ⑧ 国家試験対策を強化し、社会福祉士に30名、精神保健福祉士に7名、介護福祉士10名、公認心理師に3名が現役で合格した。社会福祉士においては、九州内私立大学現役合格率1位となった。

3. 教職員研修

- ① 8月24日(水)にリモートによるSD研修会を実施した。
「新任教職員紹介」「決算状況」「第4期中期目標・中期計画」の報告、午後「教育」「研究実践(研究環境)」「地域貢献」「学生支援」「学生募集」「管理運営」「経営基盤」の分科会に分かれてディスカッションを行った。なお、このSD研修会には、鹿児島純心女子大学の職員もオブザーバーとして参加した。
- ② 3月9日(木)に対面によるFD研修会を実施した。
学部長より第1部「本学における教学マネジメントはどうあるべきか」と題して講演があった。第2部は「本学における特別な配慮を必要とする学生支援の現状と課題」をテーマに特別な配慮を必要とする学生支援室及び学事課からの報告と問題提起があった。午後は教員を中心に小グループに分かれてディスカッションを行った。

4. 入試広報活動

- ① 2022年度は人文学部の入学定員280名に対し、文化コミュニケーション学科67名、地域包括支援学科93名、こども教育保育学科90名、計250名が入学した。
- ② 年間を通して、進学ガイダンス、高校内ガイダンス、高校訪問を行い入試広報活動に努めた。
- ③ 長崎県立小浜高校PTA(6/21)、長崎市立長崎商業高等学校PTA(6/30)、長崎総合科学大学付属高校3年生(7/6)、長崎県立長崎鶴洋高校1年生(7/7)、大村城南高校1年生(10/26)が本学を訪問した。
- ④ 6月29日(水)に進学懇談会を開催し、県内外高等学校25校が来学された。
- ⑤ オープンキャンパスは、7月30日=101名、8月27日=98名、9月3日=99名、3月=71名の参加があった。

5. 施設整備・改修

- ・C棟からL棟 渡り廊下の改修
- ・F棟外壁工事
- ・教室のLED化
- ・運搬用トラック購入
- ・学生駐車場(E駐車場)
- ・S棟駐車場ゲート取り替え
- ・博物館燻蒸作業
- ・ネットワークシステム再構築(2023年度継続)
- ・サーバー室UPS無停電電源装置
- ・情報演習室情報機器更新
- ・WEB学生カルテシステム新規構築(2023年度継続)
- ・WEBシラバスシステム再構築
- ・給与システム更改
- ・就業システム更改

6. 生涯学習及び地域貢献・地域連携

- ① 博物館のInstagramアカウントを開設した。
- ② 全天候型子ども遊戯施設めぐりドームでのイベントにおける本学学生派遣等の連携協力。
- ③ 6月6日に川平地区の自治会長と意見交換会を行った。長崎自動車へ路線バス増便の陳情に行った。
- ④ Gnadenberg主催「エディット・シュタインとアウシュヴィッツ展」7/27~8/31から博物館で開催。オープニングセレモニーにドイツ総領事ご夫妻が出席された。

- ⑤ 第23回 Junshin Cup 英語オーラルコミュニケーションコンテストを開催し、県内高校生12名が参加した。
- ⑥ 12月10日に長崎歴史文化博物館において、本学キリスト教文化研究所主催でジェイムズ・ノラン教授による「原爆とテクノロジーの規範性—The Atomic Bomb and the Technological Imperative」と題した講演会を実施した。
- ⑦ 精道三川台高校テニス部が練習のため、テニスコートの利用があった。
- ⑧ 地域連携センターにおいて、カウンセリング、訪問相談等カウンセリグ業務を実施した。
- ⑨ 2022年度は次の公開講座等を開催した。
 - ・長崎学講座「長崎における大殉教」 5月28日～7月16日 8回の講義+バス研修
 - ・TOEICに備える特別セミナー2022 Part1 5月21日 LewisIII, Dawson Roy 講師
 - ・心理教育相談センター講演会「司法精神医療における心理職の役割～医療観察法の基づく精神病院での実践から～」 5月21日 菊池安希子 武蔵野大学教授
 - ・第60回長崎・キリシタン文化研究会 6月4日 I部「長崎・キリシタン文化研究会の成り立ち」片岡瑠美子学長 II部「日本二十六聖人の列聖160年を迎えて～その列聖の意義と影響」デ・ルカ・レンゾ神父（イエズス会日本管区長）
 - ・第32回児童教育支援センター講演会「子どもの心に本をとどける～わくわく、わいわい、読書へいざなうアニメーション～」 6月4日 岩辺泰吏 元明治学院大学教授
 - ・TOEICに備える特別セミナー2022 Part2 7月30日 LewisIII, Dawson Roy 講師
 - ・TOEICに備える特別セミナー2022 Part3 10月8日 LewisIII, Dawson Roy 講師
 - ・第37回長崎学一般公開講座「新発見！シーボルト新資料より」10月22日 宮坂正英客員教授
 - ・第33回児童教育支援センター講演会「なべさんのパネルシアターセミナー～観て、演じて、楽しいパネルシアターの世界～」 11月12日 渡辺繁治氏（パネルシアター劇団「DANパネ団」主宰者）
 - ・第45回純心英語教育公開講座「子どもたちはどうしたら英語に興味を持つのか？」11月20日 山崎祐一長崎県立大学教授
 - ・TOEICに備える特別セミナー2022 Part4 12月3日 LewisIII, Dawson Roy 講師

7. その他

- ① 4月30日（土）に純心女子高等学校3年生との「高大連携プログラム～大学の研究室を知る～」プログラムを実施し、110名余りの生徒が来学。生徒による探究発表及び質疑応答を行ったあと、教員の各研究室に移動し、各教員から研究内容、大学で学ぶとはどういうことかを感じてもらった。なお、生徒による報告会が6月15日、6月18日に行われ、大学教員も出席した。
3月/18日（土）にもこのプログラムが実施され、純心女子高等学校2年生120名が来学した。
- ② 片岡瑠美子学長が令和4年春の叙勲で、「瑞宝中綬章」を授章。5月10日に長崎県警察本部において伝達式が行われた。
- ③ 8月31日に事務職員を中心とした防災訓練を実施した。

純心女子高等学校・純心中学校

1. 教育活動

1) 令和4年度の教育目標 「優しさと強さ」

- ・行って、あなたも同じようにしなさい。（ルカ 10.25～37）
- ・関心を持つ
- ・自分を磨く

2) コロナ禍における教育活動

- ① 三密を避けての学校行事の縮小実施

月	行 事		内 容
4月	入学式	縮小実施	新入生と保護者、教職員のみ
	遠足	実施	徒歩でビッグNへ
5月	聖母祭	縮小実施	行列実施 高Ⅲ中3体育館 他学年リモート
7月	(高) 校内球技大会	縮小実施	各学年 (本来は全学年)
8月	原爆慰霊祭	縮小実施	ミサ・墓前祭 (教職員・係生徒) 教室リモート
9月	体育大会	縮小実施	グラウンドで実施 高Ⅲ保護者のみ見学
11月	学園祭	縮小実施	高Ⅲ一人につき保護者1名来校可
12月	創立記念ミサ	実施	浦上教会 (高Ⅱのみ学校にてリモート)
	(高2) 修学旅行	実施	関東方面
	(中3) 修学旅行	実施	沖縄から県内に変更 *昨年度延期分
	校内クリスマス会	縮小実施	放送と録画により各教室にて
1月	(高3) ダンス発表会	実施	高3保護者来校
3月	(高3) 卒業式	縮小実施	卒業生と保護者2名まで 高Ⅱのみ参列
	(中) 球技大会	実施	
	(中3) 卒業式	縮小実施	卒業生と保護者2名

② 実施できなかった行事について

〔延期〕 中2修学旅行 (2023年12月)

〔中止〕 テレサ高校 (韓国) 交流/パースホームステイ (オーストラリア)

③ 校外活動について

- ・高総体・中総体をはじめ、様々な大会は中止なく開催されたが、基本的に無観客あるいは応援人数制限ありで実施された。
- ・運動部関連の活躍としては、(高) 陸上部：各種大会で各種競技上位入賞、インターハイ出場 (個人)、(高) バレー部：県新人大会優勝、九州大会出場、県私学大会優勝、全国大会出場、弓道部：県新人大会優勝、私学全国大会出場 (ベスト8)、空手道部：高総体個人形3位、九州大会出場などがあつた。また、(中) バスケットボール部：県中総体優勝、九州大会3位、全国大会出場、(中) バレーボール部：県新人大会3位、九州大会出場、(中) 空手道部：県新人大会個人形優勝などがあつた。
- ・文化部関連の活躍は、(高) 音楽部：九州合唱コンクール県大会金賞、九州大会銀賞、(中) コーラス部：九州合唱コンクール県大会金賞、九州大会金賞、吹奏楽部：県吹奏楽コンクール銀賞などがあつた。音楽関連では声楽、ピアノなど個人の活躍も目立った。

④ その他の活動

- ・個人でも各種コンクール (作文、書道、川柳、調理など) に参加し、入賞を果たした。
- ・図書関連、探究・研究発表に参加している。

3) 特色ある教育としての主な活動 (探究活動と平和教育)

① 中学アドバンスコース SDGs の課題に取り組む。

② 高校Ⅰ、Ⅱ類コースの探究活動の継続 / 高校Ⅰ、Ⅱ年全学年による探究活動

長崎純心大学での発表と研究室訪問 (Ⅲ年 2022年5月に実施 Ⅱ年 2023年3月に実施)

③ 世界平和のためのロザリオの祈り (1連のみ) の継続とロシアとウクライナの戦禍に心を合わせ、アシジの聖フランシスコの「平和を求める祈り」の実践

1. 8月9日「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」(長崎市主催 於：平和公園) が縮小され、高校音楽部が「千羽鶴」を合唱
2. 8月9日本校における「原爆慰霊祭 (墓前祭)」 ミサは教職員のみで参列。墓前祭は係生徒と教職員のみ参列 (生徒たちは教室にて墓前祭のみリモート参加、その後、校長による放送講話、11時02分に黙祷、世界平和を祈る。

2. 教職員研修

- ①「学びを止めない」ーコロナ禍における純心での豊かな学び（4/27 実施）
- ② 入試広報（渉外担当）から学校訪問報告（情報共有）と新コース説明（7/28 実施）
- ③ 純心版「18歳のプロフィール」の策定（8/23 実施）

3. 施設整備・改修

- ①慈悲の聖母周辺の整備（6月～8月）
- ②ロザリオ館トイレの洋式化（7月～10月）
- ③ロザリオ館玄関、ロザリオ館屋上、体育館それぞれの防水・塗装（8月～10月）
- ④セミナーハウス 用具小屋の補修（2023年2月）

*ベタニア館（新学生寮）について

前年度、小笹アパート（大手町）で寮生活を送った在寮生4名と新寮生6名（高Ⅱ1名、高Ⅰ5名）計10名と、寮監2名（専任1名、契約職員1名）でスタートした。

4. 総括

令和5年度にむけてのコース改革、新コース設置確定のための1年を過ごしてきた。

若手教員で構成された新コース検討推進委員会のメンバーによって、アカデミックプロジェクト（AP）、グローバルプロジェクト（GP）、キャリアプロジェクト（CP）の3コースの設置となった。「プロジェクト」という名称からもわかるように、これは、学校や教師が決めた枠に生徒が従っていくのではなく、生徒が自分たちで作りに上げていこうとする生徒中心の、学校が生徒と一緒にやっていこうとする学校の意志表明である。

また、どのような生徒を育て、社会に送り出そうとしているのかを真剣に問い、そのためにどのような学びをしていくかを思い描きながら、特徴あるコース設定を推し進めてきたが、同時に、「純心版『18歳のプロフィール』」の策定にも着手し、確定に至った。これは、「心を磨く」「知性を養う」「生きる力を育む」という3項目からなる生徒たちの目標である。卒業までに身につけておく内容になっているので、生徒自身のものでありつつ、教職員側からすれば、育てたい生徒像でもある。このように、令和5年度のスタートに、生徒たちのために新しく始める「プロジェクト」と生徒たちのための「純心スピリット」の準備ができたことは嬉しい限りである。

ここ数年、生徒募集に苦戦し、生徒数減少となってしまっている現状と向き合ってきたので、気持ちを切り換え、この一年は手分けして小学校、中学校訪問を実施し、新コースの説明と、変わっていきこうとしている純心と変わらない良き純心の伝統をPRしてきた。また、部活動が盛んである特徴を宣伝しながらの募集活動も続けた。実際に、部活動では各種大会等で優秀な成績を出す活躍をしており、それぞれの教員が持っている能力、時間と労力を方々で惜しみなく差し出して募集活動に取り組んだ。

この一年の生徒たちの活躍については、部活動に限らず、興味・関心があることに対する個人やグループでの取り組みも見られるようになり、教員も快く支援し、それぞれの個性が生かされたものとなっている。今後、このような取り組みの幅を広げていけたらと思う。

毎月2回ほどの施策検討会議（AGS、大学、中高）においては、「生徒数（入学者数）を増やし、財政収支を改善する」目的で会議し、授業料の値上げ（2023年度新入生から）とスクールバスの新路線開発（三重・時津・長与線 2023年4月より運行）に踏み切ることができた。

幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

1. 認可定員250名

園児数状況

幼保連携型認定こども園 長崎純心大学附属純心幼稚園	利用定員	R5(2023). 3. 1現在	備考
	230名	246名	

2. 保育・教育目標

神様の似姿に創られたいのちを大切に、神様にも人にも喜ばれる人を育てることを目指して教育保育に努めた。毎日の教育保育の示唆としてお祈りをする子ども、心の優しい子ども、生きる力を持つ子どもを育てることを目標に“神さまから託されている 子どもを通して私は伝えたい！！愛されること 愛すること 生きる喜び”をミッションとして掲げ、を純心幼稚園の教育の実践に努めてきた。

3. 教育・保育内容

神さまの似姿として創られたいのちを大切に、人に対する愛情と信頼する心を育てることを目指した。

- ① 一人ひとりの家庭環境を見極め、教育と養護のバランスに配慮しながらモンテッソーリ教育の充実を図った。
- ② 子どもの様々な内面の要求を満たし、モンテッソーリ教育を通して宗教・体育・絵画・音楽を通して生命の保持および情緒の安定を図った。
- ③ 基本的な生活習慣や言葉を身につけ、一人で出来ることに喜びを持てるように自立を促した。

4. 給食の実施状況

- ① 毎月1回の給食検討会を持ち、コロナ禍の中でも楽しい食事の時間となるよう配膳、行事食、個別の対応を継続した。
- ② アレルギー体質の子どもへの対応は、保護者と栄養士の個別対応を実施し医師の診断書のもとに事故のないよう全職員に周知し配慮したが、配慮不足で配膳を誤った事例があり周知方法の再検討を行った。
- ③ 愛情弁当の日を、毎月土曜日を含め3~4回程度。2年ぶりの試食会を行い保護者のアンケートからレシピを頂きたいとの意見も出され食育への関心が高くなって来た。今後は咀嚼、嚥下等が難しい園児が少しでも楽しい食事が出ることをついでのメニュー、食材等の検討を行う。

5. 教職員研修

- ・ECEQ公開保育を10月21日（金）に実施し、コーディネーターの先生方を中心に近隣の主任の先生方、園長先生方とのディスカッションを通して、共に学びを深める機会をいただくことができた。
- ・キャリアアップ研修該当者全員は、Web研修でまとめて受講を完了した。
- ・モンテッソーリ教育体育コース受講は見送り、長期休暇中に体育研修に参加し新年度に備えた。
- ・未満児のアシスタントコース・ワークショップはコロナ禍のためZoom研修となったが、1名受講し、ディプロマ取得に繋がった。
- ・以上児のモンテッソーリ教育は純心大学の養成コースと外部の研修情報を共有し、短時間で園内での学びを深めた。
- ・モンテッソーリ宗教教育研修会は開催されなかったが、これまでの研修を共有し、子どもたちへの提供を継続した。

6. 小学校連携

- ・今年度は小学校訪問を実施することができ、校内の見学や体験を通して、小学校入学への期待を持つことができた。今後は交流を予定している。
- ・今年度も困り感を持つ園児に対しての巡回相談が多数となった。また、保護者からの要請で小学校の担当者と連携して専門機関の指導と園訪問を依頼するなど事例も出てきた。これまで通り、要録と併せて入学までの連携と移行について、園児が安心して小学校生活を送れるよう配慮した。

7. 長崎純心大学との連携

- ・今年度は純心大学の塩月ゼミ生との活動も再開し、全クラスでの年齢別活動の中で、子どもたちが楽しく活動に取り組み学生との交流を図ることができた。